

第3章 西アジアの物語

3-1 トルコ

- ・セリム3世
 - ー西欧的近代化政策（ニザーミ＝ジェディド）
- ・マフムト2世
 - ーイエニチェリ廃止 1826
- ・アブドゥル＝メジド
 - ータンジマート開始 1839
- ・クリミア戦争 1853-56
 - ー財政破綻→経済的従属下へ→立憲運動高まる
- ・ミドハト憲法の発布 1876
 - ーアジア初の憲法 二院制と責任内閣制
- 露土戦争の勃発と同時に憲法停止 1877
 - アブドゥル＝ハミト2世の専制
 - ーパン＝イスラーム主義のアフガーニーを招く
- ・青年トルコ革命 1908
 - ーエンベルパシャを中心としたグループ
 - ーミドハト憲法復活
- ・青年トルコ革命は第1次世界大戦でドイツ側に立つ

3-2 エジプト

- ・ナポレオンの侵攻
- ムハンマド＝アリーが退治→総督に就任
- ・ムハンマド＝アリー
 - ー近代化政策
 - ー軍隊の近代化（マムルーク弾圧）
 - ー殖産興業（綿花）
 - ー領土拡張策
 - ーアラビアへ進出 ワッハーブ王国を滅ぼす
 - ースーダンへ進出
 - ー2度の対トルコ戦争
- ・ロンドン4カ国条約 1840
 - ー関税自主権を失う→ヨーロッパ経済の従属下へ
- ・イスマイル
 - ースエズ運河着工へ（1869完成）
 - 財政難へ
- ・イギリスの保護国へ
 - ースエズ運河株式売却 1875
 - しかし財政破綻へ

- ーウラービー＝パシャの乱 1882 →英軍によって鎮圧（事実上の保護国に）
”エジプト人のためのエジプト”
- ー正式な保護国下へ 1914（エジプトがオスマンから独立）

3-3 イラン

- ・サファールヴィー朝滅亡 byアフガン族
→混乱
- ・カージャール朝の成立 トルコ人 シーア派 都：テヘラン
ー初代シャー：アーガー＝ムハンマド
- ・トルコマンチャーイ条約 1828
ーロシアにアルメニア割譲
ー治外法権を認める
ー関税自主権の喪失
- ・タバコ＝ボイコット運動 1891
ーウラマーが指導
ーバザール商人が主体
- ・イラン立憲革命 1905-11
ー英露協商（1907）に基づくロシアの干渉で失敗

3-4 アフガニスタン

- ・ドゥッラーニー朝の成立 18c～
- ・第1次アフガン戦争
ーイギリスを破る 1839-42
- ・第2次アフガン戦争
→英露協商でイギリスの保護国下になることをロシアが承認